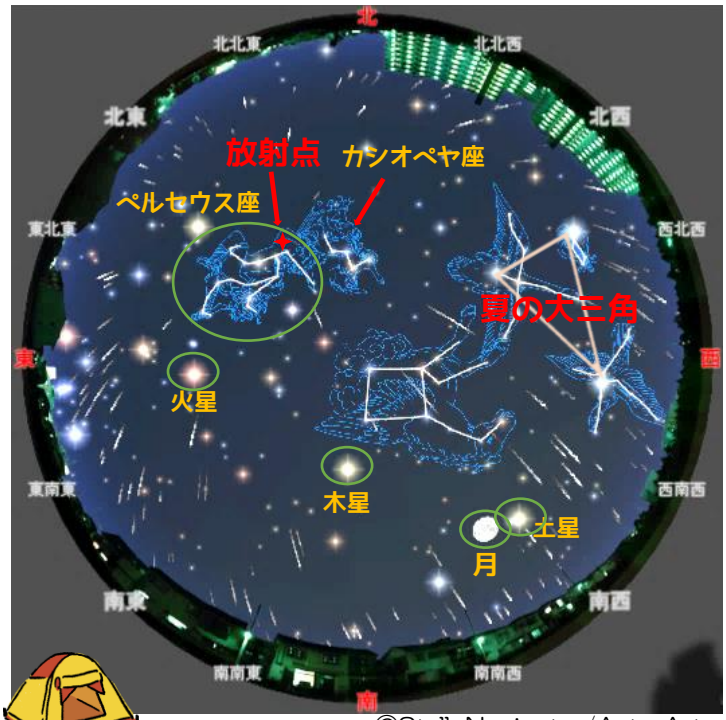
夏は流星群を見よう！

8月11日(木)から13日(土)頃にかけて、毎年たくさんの流れ星を見せてくれる「ペルセウス座流星群」がやってきます。

2022年のペルセウス座流星群は、8月12日(金)が満月のため、ほぼ一晩中月明かりがあり、観測条件が良くありません。そんな条件の中ですが、最も多く流星が見られるのは13日(土)の夜明け近くと予想されます。例年よりも数が少ないですが、ペルセウス座流星群では月明かりに負けない明るい流星も出現しますので、期待して見てみましょう！



©StellaNavigator/AstroArts

みんなで空を見上げて
SNSでつぶやこう！
ハッシュタグは…

＃空プロ宮崎
＃宮崎科学技術館

Instagram

Facebook

Twitter

※インスタグラムは関与しておりません。

上図は13日(土)午前3時の星空です。“北東”にペルセウス座が昇ってきています。カシオペヤ座のきれいな星ならび(アルファベットのW)を目印に北東方向を見上げると「ペルセウス座」を見つけられます。漢字の“人(ひと)”という字に似た星ならびがペルセウス座を見つけるヒントです。

流星群の流れ星は、放射点を中心に放射状に出現します。つまり、夜空のどこにでも流れ星は出現します。でも、周りをキョロキョロしてしまうと流れ星を見逃してしまいます。1つの場所を決めたら、根気強く1点を眺めてくださいね！　さあ、夏の夜空に願い事をしに出かけてみませんか！？　レッツゴー♪

宮崎市内の星空スポット

①高岡町　瓜田ダム

②青島(白浜)

③堀切峠

④平和台公園

マナーを守って、利用しよう！

〔流星群解説〕

＜流れ星って…！？＞

　星空を眺めていると、ときどき星がスーっと流れることがあります。砂粒（1mmから数cm）ほどの小さな天体が地球の大気に飛び込み、プラズマ化したガスが明るく光る現象です。これを一般に「流星（流れ星）」と呼んでいます。流れ星が光っているのは地上から約100km～200kmくらいで、消えてなくなるのは70km～90kmくらいです。

写真：2018年12月15日撮影（場所：田野町総合運動公園）

＜火球って…！？＞

　特に明るい流れ星は”火球（かきゅう）”と呼ばれます。上の写真の右側に明るく光るのが火球です。
そして、大きな火球になると燃えつきずに地上に落ちてくることがあります。これが「隕石（いんせき）」です。

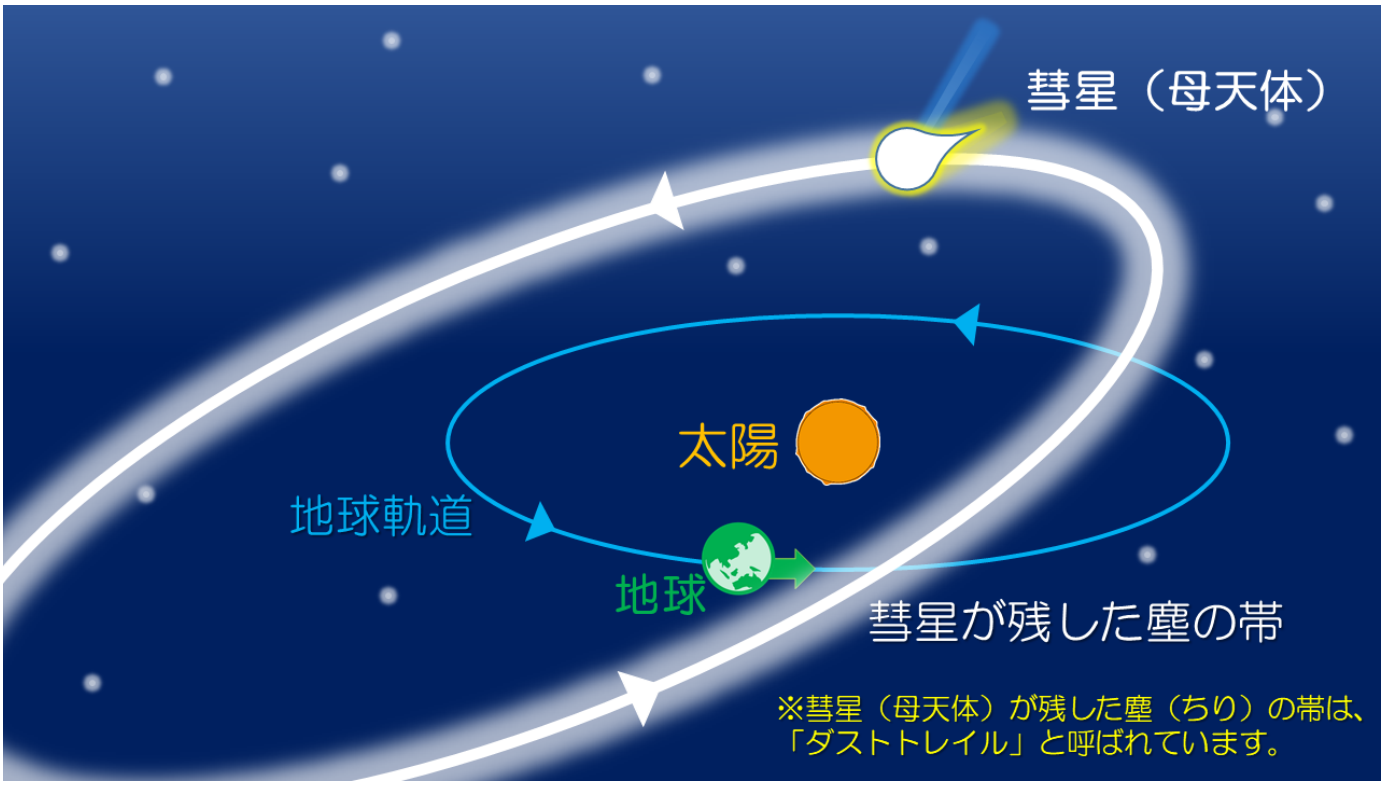
　なお、流れ星の中には、流れた経路に沿って淡い跡を残すことがあります。これを「流星痕（りゅうせいこん）」と呼んだりします。

〔流星群解説〕

＜流れ星のもと”塵(ちり)”はどこからくるの！？＞

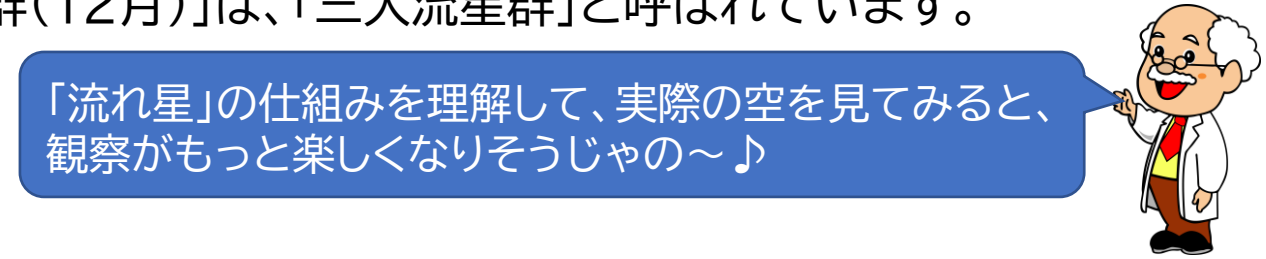
流れ星は宇宙の塵(ちり)だと言いましたが、いったいどこからやってくるのでしょうか？ここでは流星群の塵についてご紹介しましょう。

実は、流星群には塵(ちり)を運んでくる”彗星(すいせい)(別名:ほうき星)”と呼ばれる天体が存在します。下図のように彗星が通った後にはたくさんの塵がばらまかれています。そこに、私たちの暮らす地球が飛び込んでいくと一度にたくさんの塵(ちり)が地球の大気に飛び込んでくるためにたくさんの流れ星、つまり流星群となって見えるというわけです。



＜いろいろな流星群＞

毎年ほぼ安定して多くの流れ星が出現する3つの流星群「しぶんぎ座流星群(1月)」「ペルセウス座流星群(8月)」「ふたご座流星群(12月)」は、「三大流星群」と呼ばれています。



流星群を見よう！

2022年のペルセウス座流星群は、月明かりの影響で観察条件があまり良くありません。見える流星の数は例年より随分と少なくなる予想ですが、ゆったりと空を見上げながら流れ星を探してみましょう！夜半過ぎには冬の星座も顔を出す季節でもあります。流れ星を探しながら、様々な星や星座を探してみると楽しく時間を過ごせそうです♪

流れ星（流星群）は肉眼で気軽に楽しめる観察です！

＜観察のポイント＞
◆あきらめずに決めた場所をじっくり観察しましょう！
◆肉眼で一方向を観察しましょう！
◆できれば街灯かりの少ない場所を選んで観察しましょう！
※小・中・高校生のみなさんは必ず大人の人と一緒に出掛けましょう。

Let's enjoy star watching!

＜道具を上手に活用して快適な流れ星観察を！＞
◆「星座早見盤」は流星群観察の合間の星や星座さがしに便利！
◆キャンプグッズは快適な流れ星観察に便利！
◆夏場は虫対策、冬場は寒さ対策を忘れずに！

※当日は、感染症対策を十分に行って楽しみましょう！

【お問合せ】宮崎科学技術館
TEL:0985-23-2700